

株主メモ MEMO

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日(当事業年度の中間配当の予定はございません)
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ(http://www.fujipream.co.jp/)に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話0120-094-777(通話料無料)

ご注意

- 1 株主様の住所変更、買取請求、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

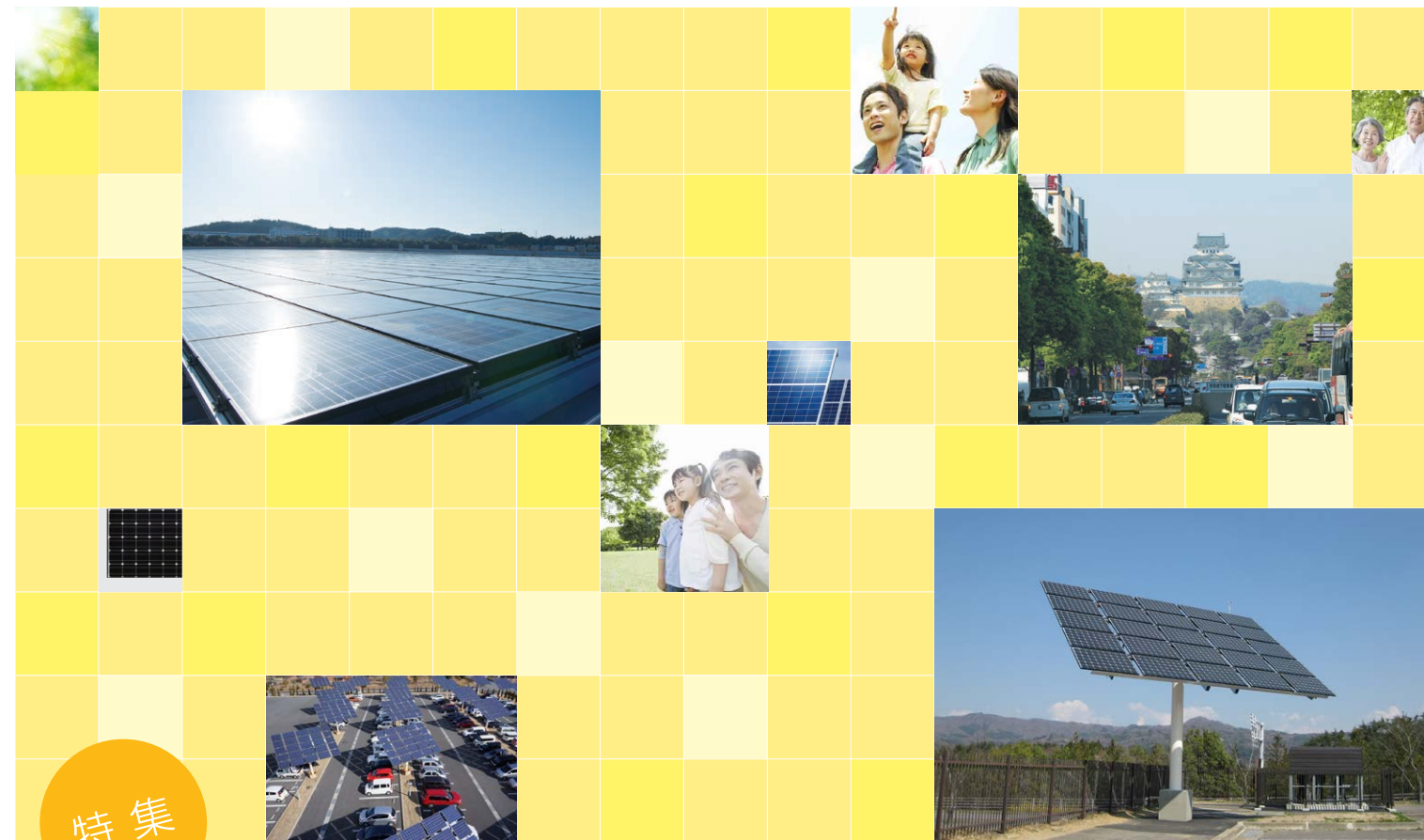
フジプレアムと社会を結ぶ情報誌

PRE [プレ]

フジプレアムの「プレ」は「先駆ける」、「アム」は「存在」という意味が込められています。この「プレ」をタイトルにした株主通信は、株主の皆様にも適切な経営情報を先駆けてお届けし、フジプレアムと社会との関わりを分かりやすくお伝えするとともに、当社が誇る技術や将来性などをご紹介してまいります。

FUJIPREAM
JASDAQ 証券コード: 4237

フジプレアムと
社会を結ぶ情報誌【プレ】
VOL.29
第32期年次報告書



特集

メガソーラーに挑む

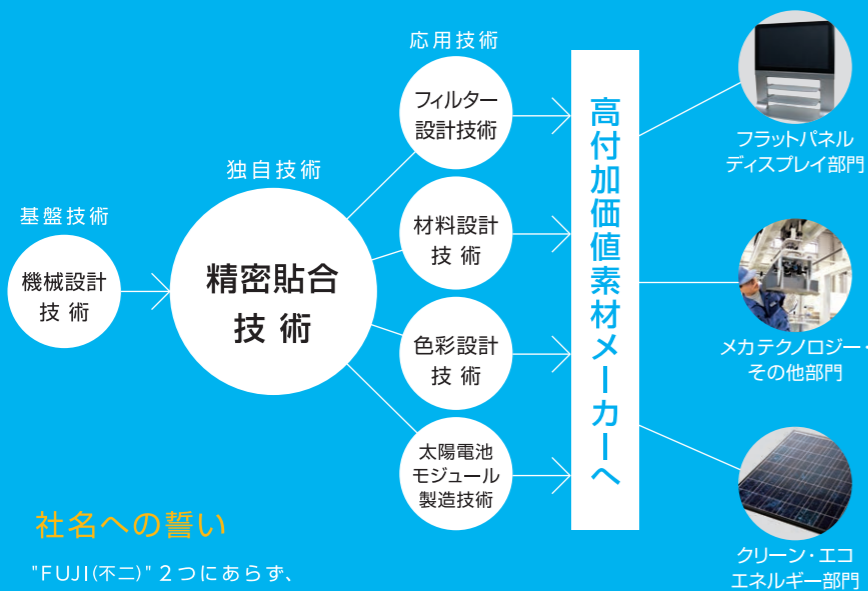
太陽光発電の、次なる可能性を目指して

不可能への挑戦

フジプレミアムは「不可能への挑戦」を掲げ、未来を切り開く研究開発型企业です。

経営ビジョン

フジプレミアムは、精密貼合技術を活かし、新たな価値を創造する素材メーカーを目指します。



社名への誓い

"FUJI(不二)" 2つにあらず、
"pre" 先駆けて、"am" 存在する企業でありたいと、
常に「不可能への挑戦」を心がけています。

経営理念

「人」は「財」なり、「財」は「人」作りなり
創意、継続は大なる「財」なり
自然は大なる「恵」なり。
全てに対して大なる「感謝」

高度情報化
社会

地球環境
共生社会



光都工場

光都PV工場

100年先の暮らしを照らすため、自らに与えられた使命を果たす。
「共存・共生・共産」の理念で、住みよい社会づくりを目指します。

新型ディスプレイ市場拡大による新規受注獲得と、
追尾型太陽光発電システムなどで事業拡大に繋げる。

株主・投資家の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より、フジプレミアムグループの事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第32期(平成26年3月期)年次報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社グループを取り巻くビジネス環境は、輸入原材料価格の上昇や新興国の成長鈍化などが懸念されますが、国内では金融対策や成長戦略の実施を背景に景気回復への期待が高まっております。

このような状況のなか、フラットパネルディスプレイ部門におきましては、4Kテレビやタッチパネルなどの新型ディスプレイ市場が急速に拡大しております。当部門では更なるイノベーションな技術開発・マーケティング活動を行い、新規ビジネスの獲得、新たな受注の拡大に繋げるべく邁進してまいります。

また、クリーン・エコエネルギー部門におきましては、弊社独自の競争力のある生産ラインを活かして、付加価値やコスト競争力のある製品の供給力の拡大を図ってまいります。また、超軽量太陽光パネルや追尾型太陽光発電システムなどで競合他社との差別化を図り事業拡大に努めてまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 松本倫長



他社にはない製品で、売電の先にある、 太陽光発電の可能性を追求していく。



2000年に建材一体型太陽電池パネルの生産を開始し、太陽光発電事業に参入したフジプレアム。独自の精密貼合とメカトロニクスの技術を活かして、追尾型太陽光発電システム(トラッキングシステム)や、超軽量太陽電池モジュール「希(のぞみ)」など、他社にはない製品を生み出してきました。これからの太陽光発電システムは、売電だけでなく、防災や地域インフラとしての役割や、産業と結びついた地域活性化への貢献が求められていくと考えています。全国各地のメガソーラープロジェクトに積極的に参加するなど、私たちは、太陽光発電の次なる可能性に挑んでいます。

～太陽光発電の、次なる可能性を目指して～

東レエンジニアリングと、 北九州市に発電事業会社を設立。

2013年12月、東レエンジニアリング株式会社との合併会社である北九州TEK&FP合同会社を設立しました。現在、北九州市内にメガソーラーを建設しており、再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)に基づいて、2014年10月1日から2034年9月30日までの20年間、売電を行う予定です。発電量は、年間約6,400MWhを見込んでいます。

このメガソーラーには、売電による直接的な収益よりも、「実証の場」としての役割に大きな期待を寄せています。たとえば、太陽光パネルや蓄電システムについて、発電・蓄電状況などのモニタリングを行うことで、製品の性能向上につながるデータが得られると期待しています。さらに、自分たちで一からメガソーラーを構築し、運営していくことで、EPC(設計・調達・建設)からO&M(運用・保守)まで、メガソーラーを取り巻く幅広いノウハウが蓄積され、お客様へのより良いご提案につながっていくと考えています。

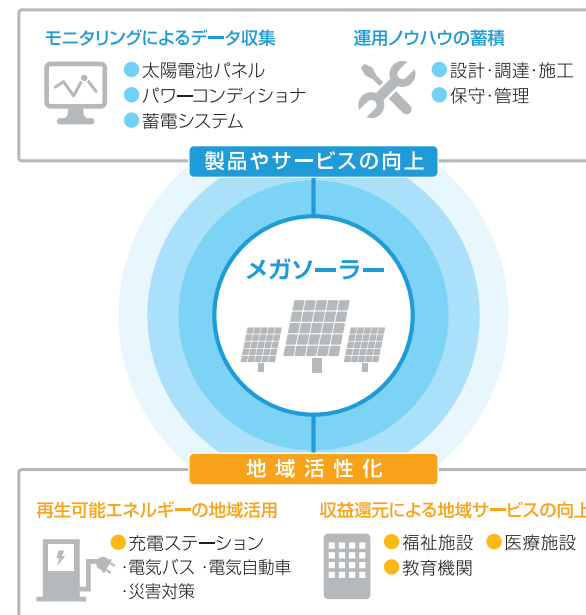


当社光都工場の駐車場に設置されたメガソーラー発電設備。こうした自社での取り組みを活かし、お客様により良い技術をご提案していく。

また、北九州市では再生可能エネルギーで走る電気バスの運行などが構想されており、メガソーラーに充電ステーションを併設する計画もあります。太陽光発電事業は、単に売電して収益を得るだけでなく、その収益や電力をどう地域に還元していくかが問われる時代になってきていると感じています。北九州でそのモデルケースをつくりあげることによって貢献し、全国に向けて太陽光発電の新しい可能性を示すことができれば、この新会社の設立は、大きな意義のあることだと思えます。

(次頁ではその他の事例をご紹介します。)

メガソーラーを、製品やサービスの向上、地域活性化につなげていく



メガソーラーに挑む

～太陽光発電の、次なる可能性を目指して～



福島空港に誕生したメガソーラー。 そのPRに、トラッキングシステムが活躍。

福島県では、震災復興に向けた取り組みのひとつとして、再生可能エネルギー関連事業による地域経済の活性化を掲げています。2014年4月、そのシンボルとなるメガソーラーが福島空港に誕生しました。国内外のメーカー数十社の太陽光パネルが揃い、発電実験や体験学習の場としても利用されています。

そんな中、当社のトラッキングシステム(追尾型太陽光発電システム)が採用され、PR効果を高めるために広場の一際目立つ位置に設置されました。自動で太陽の方向を追尾する巨大パネルは、多くの人々の目を惹き、新聞などで福島空港



当社トラッキングシステムを採用した福島空港の竣工式の様子

のメガソーラーが紹介される際に、当社製のパネルの写真が多く取り上げられることとなりました。発電だけでなく、施設のPRという面からも貢献させていただいた事例です。また、このトラッキングシステムは、農地など通常の太陽電池パネルを設置できない場所などへの活用も期待されています。

駅のホーム屋根へのパネル設置を、 超軽量太陽電池モジュール 「希(のぞみ)」が可能に。

当社の超軽量太陽電池モジュール「希」が、阪神電鉄大石駅に採用され、2014年4月から運用が開始されました。今回採用された太陽電池パネルは、通常のパネルの約半分(9.5kg/枚)となる国内最軽量の結晶系シリコン型です。

真ん中に支柱が立ち、その両側に屋根が広がっているタイプのホーム屋根は、構造体としては不安定な部類となり、これまで太陽光パネルはほとんど設置されていませんでした。もし設置しようとするれば補強工事が必要となり、コストが膨らみます。また、工事によって電車の運行を止めてしまうわけにはいきません。➤



トラッキングシステムを設置した農地

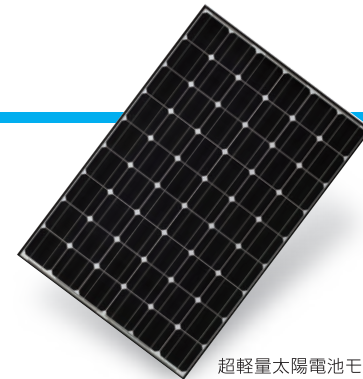
そんな中、構造計算によって、当社の超軽量太陽電池モジュールであれば、補強工事の必要がなく、既存のホーム屋根に設置できるということがわかったのです。さらに、「希」は1人でパネルを持ち運べるため、取り付けの大幅な工期短縮にも貢献します。

今回の太陽電池パネル設置によって、大石駅で使用する電力の約30%を賄えると見込まれています。現在、これだけの軽量と発電性能を両立できる太陽電池パネルは「希」の他になく、全国の鉄道会社からご相談をいただいています。これまで難しいとされていたホーム屋根への設置が全国的に進めば、大規模な再生可能エネルギーが新たに生まれることとなります。

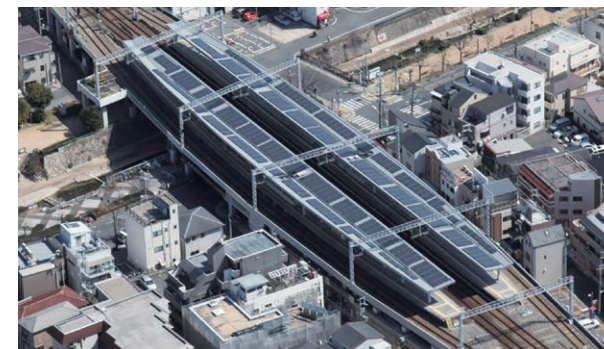
地元企業として、兵庫県の メガソーラープロジェクトに貢献。

フジプレアムの本社や工場、研究所がある兵庫県でも、再生可能エネルギーの普及拡大に向けて積極的な取り組みが進められています。そのひとつとして、兵庫県企業庁によって県内各所でメガソーラープロジェクトが展開されています。当社は、地元企業として、兵庫県産の太陽電池で、ひとつでも多くのプロジェクトに貢献できるように努力を続けています。

2015年2月から稼働を開始する兵庫県たつの市のメガソーラーにも、当社の太陽電池パネルの採用が決まっています。このメガソーラーは、当社の播磨テクノポリス光都工場のすぐそばにあり、約2万枚のパネルを効率的に供給できる体制を整えています。また、架台には兵庫県産の間伐



超軽量太陽電池モジュール「希」



「希」が採用された、阪神電鉄大石駅

材が使用され、地域産業の活性化にもつながっています。

地域でつくられた部材からメガソーラーが生まれ、地産地消によって地域産業が育っていく。そして、メガソーラーから生まれた電気エネルギーや収益が地域に還元され、地域社会全体がさらに活性化していく。このような好循環に貢献していければ、地元企業としてこれほど嬉しいことはありません。



左より、フジプレ販売株式会社 営業促進部門 営業部 副部長/ 柵木 祥隆 代表取締役社長/ 名村 信彦 営業促進部門 部門長/ 改發 昌哉

農林水産省モデル事業に当社太陽光発電設備が採用

有限会社とまとランドいわき様が採択された農林水産省の「地域還元型再生可能エネルギー早期モデル事業」に当社太陽光発電システムを導入していただき、この度設置が完了いたしました。とまとランドいわき様は全国でもトップレベルのトマト生産量を誇り、地域活性化を第1に考えた農業経営が評価され、平成25年度天皇杯を受賞しています。

当社は農業と太陽光発電を組み合わせる新たな付加価値を生み出すことを目指してきました。

そのような中、東北大震災の復興支援をさせていただいた、とまとランドいわき様に当社太陽光発電システムが採用され、農林水産省モデル事業に採択されました。

このモデル事業では、とまとランドいわき様が事業主体となり、同社所有地に当社の太陽光発電システムを設置し、売電収入の一部（売電収入見込み額の約5%）を福島県いわき市磐城農業高等学校での実習用品や環境整備に充てることにより、後継者育成等に活用していただきます。

さらに追尾型太陽光発電システム（トラッキングシステム）75基が、今回の太陽光発電システム設置場所に隣接した農地に、今年中の完成を目指し設置される予定です。トラッキングシステムの下ではいちじくの栽培を予定しており、「農業収入」＋「売電収入」による営農型太陽光発電事業の事例として期待されています。

事業概要

地域還元型モデル事業

- ☀ **事業主体** (有)とまとランドいわき
- ☀ **設置場所** 福島県いわき市平下神谷南内記 25
- ☀ **設備概要** システム容量:558.0kW
設置パネル:FC-225Y(225W×2,480枚)
- ☀ **発電量** 年間予想発電量:約 642,000kWh

営農型太陽光発電事業

- ☀ **事業主体** (有)とまとランドいわき
- ☀ **設置場所** 福島県いわき市平下神谷南内記 25
- ☀ **設備概要** システム容量:412.5kW
トラッキングシステム75基
- ☀ **発電量** 年間予想発電量:約712,000kWh

地域還元型再生可能エネルギー早期モデル事業とは?

農山漁村の豊富な資源を活用して行う再生可能エネルギー発電事業で得られた収入を地域の農林漁業の発展に活用するモデル的的事业です。



設置完了した、当社太陽光発電システム

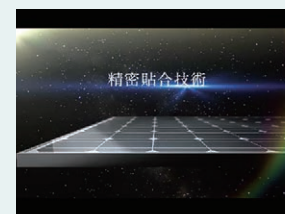


トラッキング太陽光発電システム

トピックス Topics

TOPICS 01 九州の一部地域で当社CMを放送

平成26年1月上旬から2月上旬にかけて、フジプレミアムブランドの認知度を向上させるため、九州地方にて超軽量太陽電池モジュールのCM放送を開始いたしました。



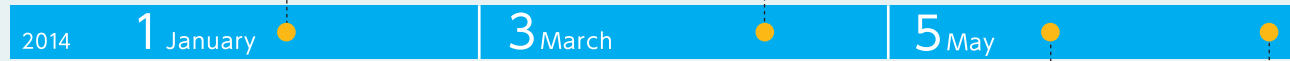
CMのワンシーン



CM販促用ポスター

TOPICS 02 今年度の入社式を実施

平成26年度の入社式を3月24日に行いました。期待を膨らませている20名の新入社員の前で、松本社長は「仕事では常に前進が求められる。皆が新たな気持ちで取り組んでほしい。」と挨拶しました。



TOPICS 03 本社にて決算説明会を実施

平成26年3月期 決算発表を5月16日に行い、決算説明会を5月30日に執り行いました。関係者の方々にお集まりいただき、当社役員より今期の決算内容や各事業部の業績、事業の見通しをご説明いたしました。



TOPICS 04 姫路市との共同研究用農地で田植え

平成25年度より、兵庫県姫路市と共同で営農型太陽光発電の研究を行っている農地で、今年も田植えを実施いたしました。



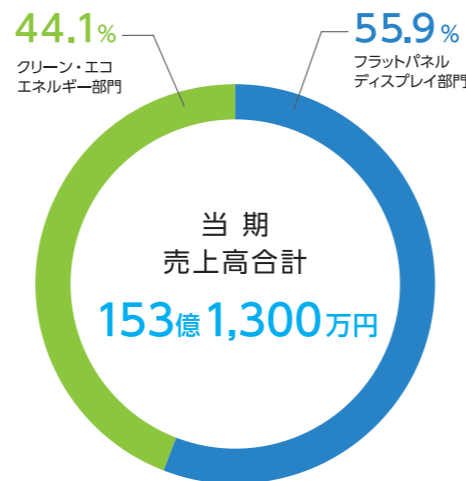
Segment Information

当期純利益 8億800万円確保

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府による経済対策への期待感や日銀による金融緩和政策を背景に、円安の進行による輸出の持ち直しや、消費税率上げ前の駆け込み需要の発生等、全体として緩やかな景気回復基調を維持しました。しかしながら、輸入原材料価格の上昇や、中国をはじめとする新興国の成長鈍化への懸念、並びにウクライナや東アジアの情勢不安等、先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループの主力事業であるフラットパネルディスプレイ部門におきましては、タッチパネルや次世代ディスプレイ関連の市場が伸び、堅調に推移いたしました。また、グリーン・エコエネルギー部門におきましても、再生可能エネルギーの固定価格買取制度により、産業用の需要が非常に活発で、引き続き好調に推移いたしました。

この結果、当連結会計年度における当社グループの連結業績は、売上高15,313百万円(前年同期比29.6%増)、営業利益1,433百万円(同35.3%増)、経常利益1,509百万円(同26.2%増)を計上し、当期純利益は808百万円(同57.4%増)となりました。



フラットパネルディスプレイ部門



第32期売上高
85億5,500万円

営業利益 6億7,100万円

当部門につきましては、国内外におけるテレビ市場は、国内でのプラズマディスプレイの生産が終息されたものの、4Kテレビ等の高付加価値タイプのディスプレイ市場が拡大しており、堅調な推移を見せております。一方、昨年より注力しておりますタッチパネル市場におきましては、スマートフォン・パソコン・デジタルサイネージ・タブレット・電子黒板等に使用される用途が広がり、生産量も拡大しております。このような市場の変化の中、弊社独自のダイレクトボンディング技術を活用し、新規ビジネスへの取組みを強化いたしました。また、新規生産設備の導入による生産の高度化や効率化を図り、全社に亘るコストダウンと経費の削減を徹底し、実績を上げてまいりました。

この結果、売上高8,555百万円(前年同期比19.7%増)、営業利益671百万円(同22.9%増)となりました。

グリーン・エコエネルギー部門



第32期売上高
67億5,700万円

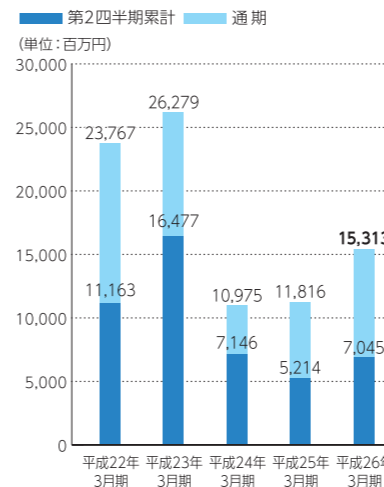
営業利益 7億2,900万円

太陽電池の国内市場は、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の追い風により、メガソーラーや工場・倉庫等大規模な設備への設置が進みました。また、これまで住宅用の販売が中心であった既存の販売店・施工店も産業用に営業力をシフトすることにより、中小規模の産業用発電システムの導入も急速に拡大いたしました。これらの市場に対しては、一昨年より販売している超軽量太陽電池モジュールが多くの受注を獲得し、販売量増加に貢献いたしました。更に、平成25年4月より規制緩和された、農地並びに駐車場へ設置可能なトラッキングシステム等の新しい発電システムの展開に努めてまいりました。

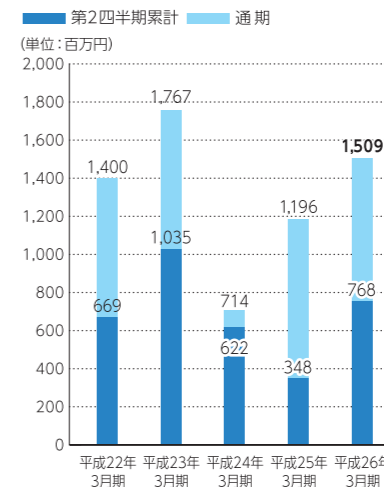
この結果、売上高6,757百万円(前年同期比44.7%増)、営業利益729百万円(同51.3%増)となりました。

Financial Highlight

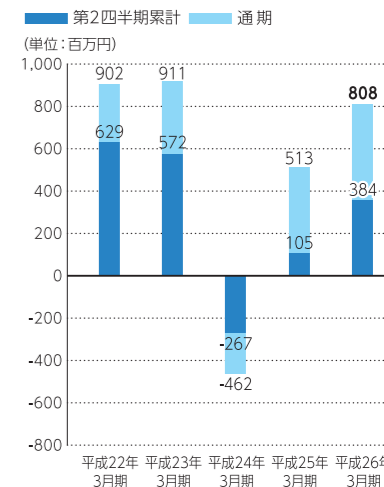
売上高



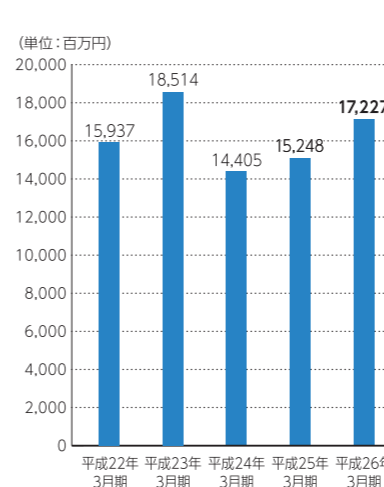
経常利益



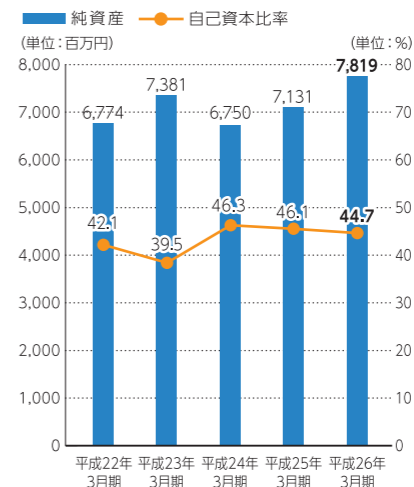
純利益



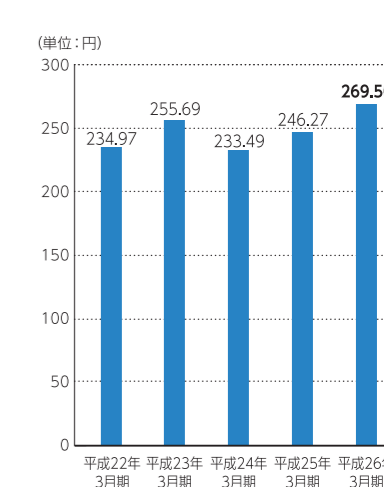
総資産



純資産・自己資本比率



一株当たり純資産



連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当期 (平成26年3月31日)	前期 (平成25年3月31日)
流動資産	10,915,584	8,763,059
現金及び預金	3,708,690	4,203,480
受取手形及び売掛金	4,542,343	3,039,857
商品及び製品	967,737	515,810
仕掛品	765,847	264,405
原材料及び貯蔵品	706,622	644,831
その他	241,909	105,612
貸倒引当金	△17,566	△10,938
固定資産	6,311,955	6,485,935
有形固定資産	5,903,796	6,175,142
無形固定資産	16,013	19,279
投資その他の資産	392,145	291,513
資産合計	17,227,540	15,248,994

(単位:千円)

科目	当期 (平成26年3月31日)	前期 (平成25年3月31日)
流動負債	7,463,187	5,541,708
支払手形及び買掛金	2,310,257	1,792,885
短期借入金	2,700,000	1,450,000
1年内返済予定の長期借入金	1,632,013	1,457,679
未払法人税等	459,008	344,372
賞与引当金	15,563	15,688
その他	346,344	481,083
固定負債	1,944,423	2,575,441
長期借入金	1,770,000	2,102,013
その他	174,423	473,428
負債合計	9,407,611	8,117,150
株主資本	7,664,812	7,027,592
資本金	2,000,007	2,000,007
資本剰余金	2,440,803	2,440,803
利益剰余金	4,087,891	3,450,671
自己株式	△863,890	△863,890
その他の包括利益累計額	36,266	9,622
少数株主持分	118,850	94,629
純資産合計	7,819,928	7,131,843
負債純資産合計	17,227,540	15,248,994

連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)	前期 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)
売上高	15,313,369	11,816,840
売上原価	12,705,920	9,645,773
売上総利益	2,607,448	2,171,067
販売費及び一般管理費	1,174,385	1,111,778
営業利益	1,433,062	1,059,289
営業外収益	118,561	184,138
営業外費用	41,745	46,934
経常利益	1,509,878	1,196,493
特別利益	—	170
特別損失	49,039	64,197
税金等調整前当期純利益	1,460,838	1,132,465
法人税、住民税及び事業税	614,032	340,443
法人税等調整額	13,915	262,626
少数株主損益調整前当期純利益	832,890	529,394
少数株主利益	24,220	15,628
当期純利益	808,669	513,766

連結包括利益計算書

(単位:千円)

科目	当期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)	前期 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)
少数株主損益調整前当期純利益	832,890	529,394
その他の包括利益	26,643	22,939
その他有価証券評価差額金	6,108	3,024
為替換算調整勘定	20,534	19,914
当期包括利益	859,534	552,334

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで)	前期 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	△1,227,024	817,701
投資活動による キャッシュ・フロー	△293	△415,577
財務活動による キャッシュ・フロー	909,536	△982,038
現金及び現金同等物に係る 換算差額	1,686	1,871
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△316,095	△578,043
現金及び現金同等物の 期首残高	3,974,785	4,552,829
現金及び現金同等物の 期末残高	3,658,690	3,974,785

Profile

会社概要

(平成26年3月31日現在)

商号	フジプレミアム株式会社 Fujipream Corporation(英)
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表者	代表取締役社長 松本倫長
資本金	2,000百万円
事業内容	薄型テレビ用光学フィルター関連事業 光学製品関連事業 太陽光発電関連事業 他
従業員数	256名(連結・臨時雇用含む)
営業所及び工場	本社 姫路工場 播磨テクノポリス光都工場/研究所/PV工場 東京オフィス
連結対象となる子会社	フジプレ販売株式会社(設立:平成13年4月) 上海不二光学科技有限公司(設立:平成15年9月)
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行/みずほ銀行

取締役及び監査役

(平成26年3月31日現在)

代表取締役社長	松本 倫長
常務取締役	澁谷 尚
取締役	名村 信彦
常勤監査役	松本 毅(社外)
監査役	片岡 智彦
監査役	木村 裕史(社外)
監査役	瀧元 一(社外)

株式の分布状況

(平成26年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	105,000,000株
発行済株式の総数	29,786,400株
株主数	4,422名

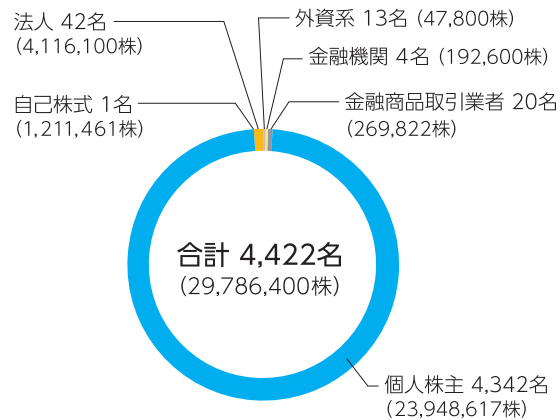
大株主の状況

(平成26年3月31日現在)

松本 實藏	13,130,700株
松本 倫長	2,441,400株
松本 庄藏	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
フジプレミアム株式会社	1,211,461株
旭硝子株式会社	936,000株
リントック株式会社	936,000株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
松本 春代	360,000株
松本 守雄	330,000株

株式分布状況

(平成26年3月31日現在)



HARIMA - TAMBOU

播磨探訪

NHK大河ドラマで好評放送中の「軍師官兵衛」。その主人公はご存知、播磨の地と深いゆかりのある黒田官兵衛です。現在、姫路城の目の前に「ひめじの黒田官兵衛大河ドラマ館」が開設され、官兵衛が生きた戦国時代の世界や、ドラマの舞台裏を体感することができます。当時の時代背景や人物紹介にはじまり、撮影風景の再現や衣装の展示、姫路で行われたロケ撮影のメイキングシーンまで、見どころ盛りだくさん。戦国時代に活躍した軍師の中から、自分ほどのタイプの軍師に近いかを診断する「戦国軍師診断ゲーム」まであります。ぜひ、ドラマ館に足を運んで、かつて播磨の地を舞台に活躍した名軍師の物語を、さまざまな角度から堪能してみてくださいいかがでしょうか。

vol.27

戦国時代の世界を体感!

ひめじの黒田官兵衛 大河ドラマ館 見どころ案内



◎大河ドラマ館 充実した展示内容



官兵衛と姫路城

物見櫓(ものみやぐら)を中心としたドラマのオープンセットを再現し、主要キャストがパネルで紹介されています。



官兵衛の居室

ドラマでたびたび登場する官兵衛の居室。碁盤や書物、弓矢など、細かい小道具にもこだわって再現され、記念撮影ポイントになっています。



姫路城のジオラマ

官兵衛の時代の姫路城は、どんな姿だったのか?官兵衛、秀吉、そして現代、それぞれの時代の姫路城がジオラマで展示され、その違いを見比べてみるすることができます。

大河ドラマ館

期 間:平成27年1月10日(土)まで
時 間:9:00~17:00(入館は16:30まで)
場 所:家老屋敷跡公園内(姫路市本町68)
休 日:12月29日、12月30日
交 通:JR姫路駅より徒歩約10分
入園料:大人/500円
小人/200円(小学生・中学生)